



促成トマトの黄化葉巻病に注意しましょう！

トマト黄化葉巻病は、タバココナジラミが媒介するウイルス病です。発病してからの治療はできないため、タバココナジラミの防除が重要です。

本年の抑制トマトにおいて黄化葉巻病が平年より多く発生しています。本病は前作の促成トマト（令和 5-6 年）でも多くの発生を認めたことから、促成トマト（令和 6-7 年）においてもタバココナジラミの防除を徹底して黄化葉巻病を防除しましょう。

（茨城県病害虫防除所病害虫発生予報 11 月号 p3 参照 [yr0611.pdf \(pref.ibaraki.jp\)](http://yr0611.pdf(pref.ibaraki.jp))）



写真1 頂部の萎縮症状



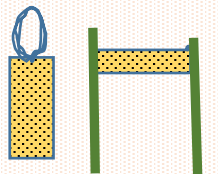
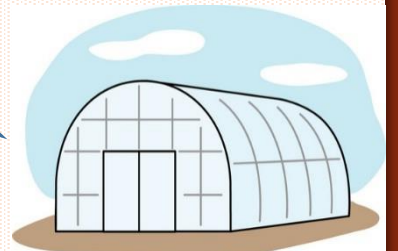
写真2 葉の退緑症状



写真3 タバココナジラミ成虫
（写真1, 2, 3 茨城県病害虫防除所）

防除のポイント

0.4mm以下の防虫ネット



- ① 発病株は伝染源となるため、速やかに抜き取り、適切に処分する。
- ② 媒介虫であるタバココナジラミの施設内への侵入および施設外への飛び出しを防ぐため、**開口部に 0.4mm 目合い以下の防虫ネットを設置する**。施設ビニルや防虫ネットに破損がある場合は必ず補修する。
- ③ **黄色粘着板や黄色粘着テープ**を施設内や周辺部に設置し、タバココナジラミ成虫を捕殺する。
- ④ タバココナジラミは多発すると防除が困難となるため、発生の少ないうちに防除を徹底する。
- ⑤ 薬剤散布は、薬液が葉裏にもよくかかるよう十分な量で丁寧に行う。タバココナジラミの薬剤抵抗性の発達を抑えるため、IRAC コードの異なる薬剤をローテーション散布する。
- ⑥ 黄化葉巻病耐病性品種は、ウイルスに感染しても発病は抑制されるが、感染株は本病の伝染源になるため、タバココナジラミの防除は感受性品種と同様に行う。
- ⑦ 雑草はタバココナジラミの生息場所となるため、ハウス内外の除草を徹底する。また、野良生えトマトは伝染源となりやすいので見つけ次第処分する。（令和 6 年 8 月 20 日発表 病害虫速報 No. 8 参照）

抑制栽培で発生がみられた施設園場では、病原ウイルスを保毒したタバココナジラミのハウス外への飛び出しや次作への持ち越しを防止するため、栽培後半でも、成虫に対して効果の高い薬剤を用いた防除を行い、タバココナジラミの密度を下げる。また、栽培終了後は、薬剤処理による古株枯死を行った上で、作物残渣を適切に処分する。

表 トマトのコナジラミ類の主な防除薬剤

（令和 6 年 11 月 12 日現在）

薬 剤 名	希釈倍率	使用時期／ 使用回数	分類
アニキ乳剤	1,000～2,000 倍	収穫前日まで／ 3 回以内	6
グレーシア乳剤	2,000 倍	収穫前日まで／ 2 回以内	30
コルト顆粒水和剤	4,000 倍	収穫前日まで／ 3 回以内	9B
コロマイト乳剤	1,500 倍	収穫前日まで／ 2 回以内	6
ディアナ SC	2,500 倍	収穫前日まで／ 2 回以内	5
モベントフロアブル	2,000 倍	収穫前日まで／ 3 回以内	23

注）マルハナバチへの影響の目安については、農薬会社にご確認ください。

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農 News は J A 全農いばらきホームページでもご覧になれます。